

第三走者・第一走者を目指す！

柏崎市立鏡が沖中学校 3年 シャープ ショーン

僕は、中学三年間陸上部に所属し、リレーメンバーだった。そして走順は、第三走。第一走は瞬発力をいかしてよいスタートを切り、そのスピードを受けて第二走が直線を走り、第三走の僕がカーブを走って、アンカーにバトンを繋ぐ。個人種目の短距離もやっていたが、僕はチームメイト四人でバトンを繋ぐリレーが好きだった。

税の仕組みもリレーに似ているなど思った。働いて税金を納める人が第一走者、その税金を集めて必要なところへ分ける国や県、市町村が第二走者で、そのサービスを受ける僕たちが第三走者。僕は、税のリレーも今は第三走者だ。

僕が受けている税の恩恵は、毎朝家を出た時から始まっている。整えられたアスファルトの通学路、信号や横断歩道もある。背おったバッグには教科書が入っている。教室には机や椅子、エアコン設備もある。そして、先生が来て授業が始まり、放課後には部活動もできる。更に、今、正に僕の中学校では古くなったところを直し、より快適に使えるように大規模な改修工事が行われている。

租税教室で税について学ぶまでは、全て当たり前のことだと思っていた。しかし、教育や学校生活には多くの税金が使われ、このような環境が整えられていることを知った。教育や道路、ごみ処理、病院などの生活や命に関わるものだけでなく、部活動や大会で使用した陸上競技場、幼い頃大好きだったブランコがあった公園や、たくさん絵本を借りた図書館など、心や体を豊かにする施設やサービスにも税金が使われている。

税金がたくさん集まれば、よりよいサービスが受けられて豊かな生活を送ることができるが、税金は自然と湧き出てくるものではなく、所得税、消費税、法人税、相続税など、国民一人一人が納めた限りある大切なお金である。国や県、市町村はその大切なお金を集め、最適な使い道を考えて様々な事業やサービスに割り振っている。

では、税のリレーにアンカーはいるのか？ゴールはあるのか？アンカーはいないのかもしれない。障がいのある人も、困っている人も安心して幸せに暮らせる助け合いの社会という名の競技場を、税のバトンを繋ぎながら皆で走り続けているのかもしれない。安心や幸せがより大きくなり、それが続くことが最終的なゴールなのではないかと思う。

今まで僕はバトンを受け取るばかりだったが、今度は渡す番へ。税のリレーの第一走者、つまり、納税をしっかりできる大人になれるよう、今ある環境に感謝しながら、学生としてやるべきことに一生懸命取り組んでいきたい。